

「勉強の軸，量と質」

1. 勉強の軸について

(1) 前提

司法試験に限らず，勉強を始める上で，最初にやるべきことは，軸を決めることだと思います。私は軸と呼びますが，呼び方は何でもいいです。何を軸とするか，何を基礎・基本とするか，何を信じるかを決めます。軸を決めれば，あとはその軸に従って，黙々と勉強をするだけです。後述のように，ロースクールの授業でもいいと思いますし，司法試験予備校や基本書・参考書でもいいと思います。とにかく，1つの軸を決めることが重要だと思います。

(2) 体験談

私の場合，法学部卒であったものの，法律学の勉強法がまったくといっていいほどわからなかったため，未修コースに入りました。そして，未修コースであってもロースクールの成績と司法試験の合格率には正の相関があることや，司法試験委員に入るような教授陣の存在から，ロースクールの授業を軸とすることを決めました。あとは，良い成績を取れるように努力するだけでした。もちろん，授業だけで答案が書けるようになったわけではありませんが，期末試験で良い点を取るための方法を考え，実践することで，司法試験に合格する実力を付けることができたと思っています。

2. 勉強の量と質について

(1) 前提

勉強の量が大事か，質が大事か，という点は，いつの時代も受験生の頭を悩ませていると思います。私の考えは，まずは量，次に質，です。

まずは量，といっているのは，初学者の段階で，何が質の高い勉強かを評価できるわけがないと考えているためです。司法試験予備校に通うなどして，一般的に質が高いといわれている勉強をすることはできると思いますが，それが自分に合っているかはわかりません。したがって，少しでも司法試験に合格する可能性を上げたいのであれば，自分が勉強に充てることができる時間の範囲で，最大限の勉強量を確保すべきだと考えます。

次に質，といっているのは，勉強量には限界があるためです。自分ができる勉強をがむしゃらにやっても，1日の時間には限りがあります。また，ロースクールで2年又は3年という長い間，勉強を続けるとなると，持続可能な勉強時間は，1日にせいぜい8～10時間程度だと思います。さらに，アルバイトや家庭の事情で，勉強量が増やせないということもあるでしょう。様々な事情を考慮し，自分にとっての持続可能な勉強時間の限界がわかると思います。そこから，同じ時間でより高い学習効果を得られる勉強を模索していきます。可能な限りの勉強量を確保しつつ，何度も何度も勉強の質を見直していくことで，確実に実力を付けていくことができ，かつ，成長を加速させていくことができると思います。

(2) 体験談

私は、ロースクールでの勉強以外に、仕事やアルバイト、家庭に割く時間などが無かったため、生活のほとんどの時間を司法試験の勉強のために使うことができました。そんな中で勉強量を確保しようと思い、授業時間以外で1日あたり、1年次には8時間、2年次には10時間、3年次には12時間を目標に勉強していました。しかし、私にとっての持続可能な勉強時間は、1日に10時間程度で、それ以上にしようとするとう頭痛や目の違和感が出てきました。そこで、通常の授業期間や授業期間外には、1日10時間を目途にし、期末試験前などには一時的に1日12時間程度の勉強をするようにしました。

また、勉強の質の見直しは、期末試験ごとに行っていました。具体的には、期末試験までの勉強と試験での評価を分析し、良い評価を得られた科目の勉強法は変えず、思ったような評価が得られなかった科目の勉強法は、コンタクトティーチャー等に相談しながら見直すようにしました。未修コースの場合、少なくとも6回の期末試験を経験することができ、それぞれで研究者の評価を得ることができます。期末試験ごとに見直しを行い、勉強の質を高めていけば、司法試験の合格にも十分届き得ると思います。

3. おわりに

以上を私の合格体験談とさせていただきます。かなり抽象的な内容になりましたので、具体的な勉強内容等については、他の合格体験談を参考にしてください。

ただ一つ、間違いのないことを言わせてもらおうと、勉強法に正解はありません。常に自分自身ができる限りのことをやっているか確認し、さらに勉強法を見直していくことで、少しずつ自分に合ったより良い勉強法を確立することができるのだと思います。その過程は、辛く厳しいものだと思いますが、合格の可能性を少しでも高めるためには、必要な困難です。何よりも自分を信じて、最後まで頑張ってください。これからは一修了生として応援しています。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

以上